

令和7年度 中瀬小学校 学校評価

I 令和7年度の本校の取組み

学校教育目標 : 自ら学び 共に高め合う子

なかよく【豊かな心】

かしこく【確かな学力】

ぜんりよく【健やかな身体】

＜自分も友達も大切にする力＞
 ○互いを認め、自分のよさをいかしながら協働する子
 ・自分のよさを発揮し、自己有用感を高められる特別活動の実践（学級活動・縦割り活動・児童会活動）
 ・道徳授業の工夫改善・挨拶運動
 ・体験活動の充実

＜課題を見つけ解決する力＞
 ○楽しんで課題解決に取り組む子
 ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践（子供の「学びたい！」を大切にした単元構想）
 ・教科担任制による授業の充実
 ・ICT活用
 ・授業力向上を目指した校内研修
 ・読書活動の充実

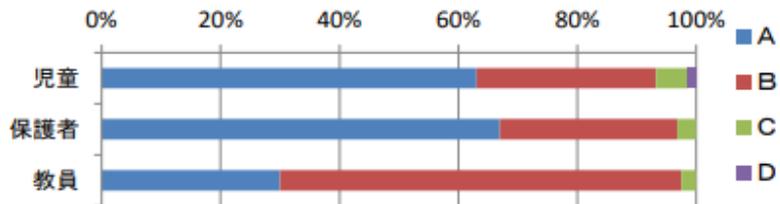
＜夢に向かって努力する力＞
 ○目標に向かって粘り強く取り組む子
 ・学習カードを活用した体力作り
 ・体育学習の充実
 ・多様な運動に親しむため体育的イベントの実施
 ・健康教育の推進（規則正しい生活習慣）
 ・防犯訓練や防災訓練・防災教育の実施

II 自己評価

児童、保護者、教員との比較

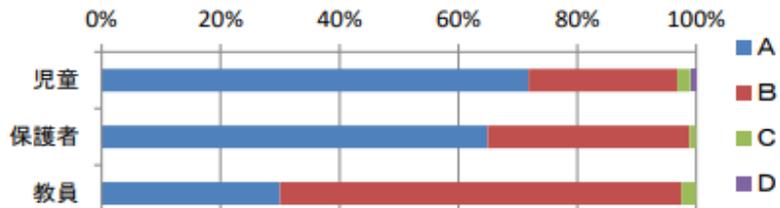
1. 自分を大切にしている。

	A	B	C	D
児童	63.1%	30.2%	5.4%	1.4%
保護者	67.0%	29.9%	3.2%	0.0%
教員	30.0%	67.5%	2.5%	0.0%



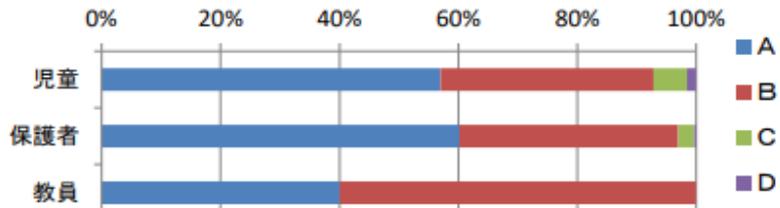
2. 友達のよさを大切にしている。

	A	B	C	D
児童	71.8%	25.0%	2.2%	1.0%
保護者	64.9%	34.0%	1.1%	0.0%
教員	30.0%	67.5%	2.5%	0.0%



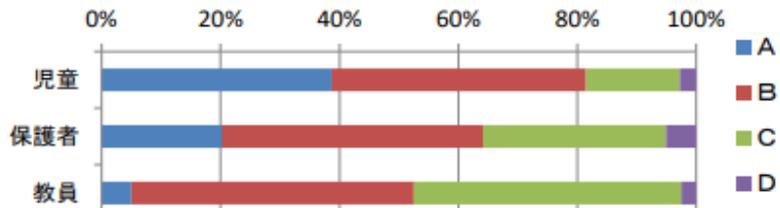
3. 友達と一緒に助け合って活動することができる。

	A	B	C	D
児童	57.0%	35.8%	5.7%	1.5%
保護者	60.2%	36.8%	2.7%	0.3%
教員	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%



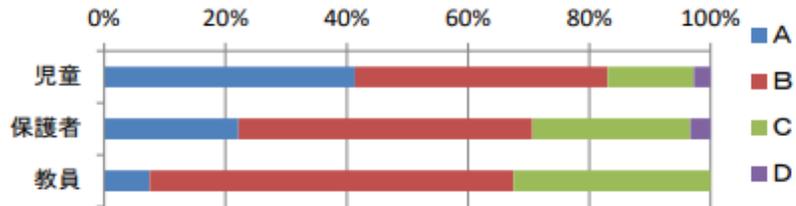
4. 学習において、自分から課題(目標)を見つけて取り組むことができる。

	A	B	C	D
児童	38.7%	42.7%	15.8%	2.8%
保護者	20.2%	43.9%	30.8%	5.1%
教員	5.0%	47.5%	45.0%	2.5%



5. 課題(目標)に対して自分なりに工夫しながら解決することができる。

	A	B	C	D
児童	41.4%	41.6%	14.2%	2.8%
保護者	22.1%	48.5%	26.1%	3.3%
教員	7.5%	60.0%	32.5%	0.0%



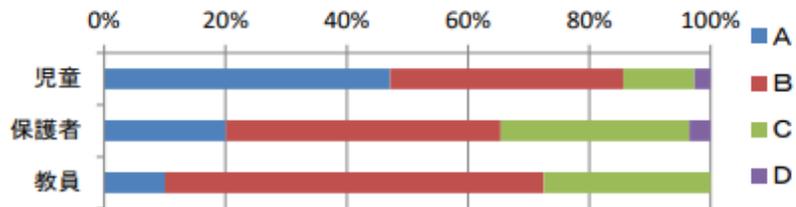
6. 楽しんで学習に取り組んでいる。

	A	B	C	D
児童	59.8%	29.6%	8.7%	1.9%
保護者	22.6%	49.3%	23.1%	5.1%
教員	25.0%	70.0%	5.0%	0.0%



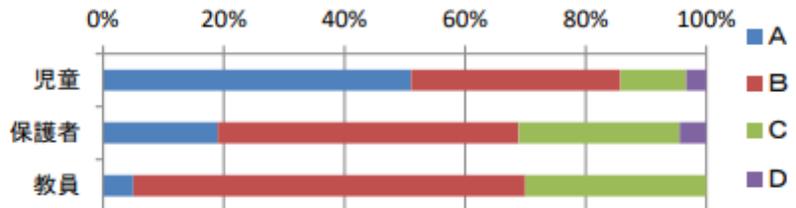
7. 夢(目標)に向かって、ねばり強く取り組んでいる。

	A	B	C	D
児童	47.2%	38.5%	11.8%	2.6%
保護者	20.1%	45.3%	31.1%	3.5%
教員	10.0%	62.5%	27.5%	0.0%



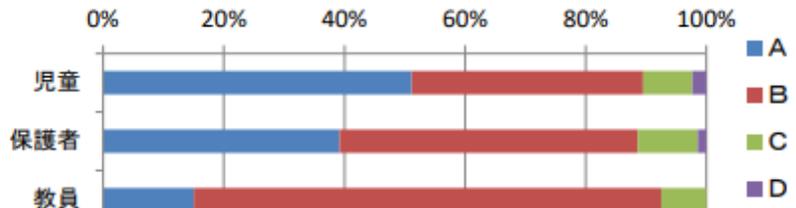
8. うまいかないことも、あきらめずに最後までやり通すことができる。

	A	B	C	D
児童	51.0%	34.7%	10.9%	3.3%
保護者	19.0%	49.9%	26.7%	4.4%
教員	5.0%	65.0%	30.0%	0.0%



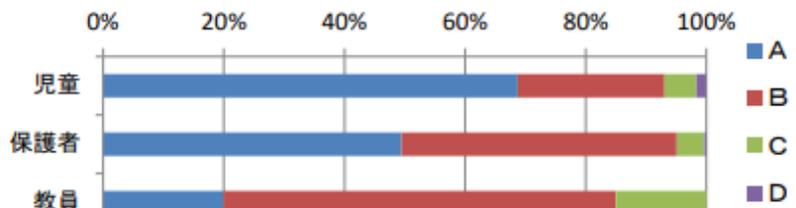
9. 健康に気を付け、規則正しい生活を送ることができている。

	A	B	C	D
児童	51.2%	38.3%	8.2%	2.4%
保護者	39.2%	49.4%	10.0%	1.4%
教員	15.0%	77.5%	7.5%	0.0%



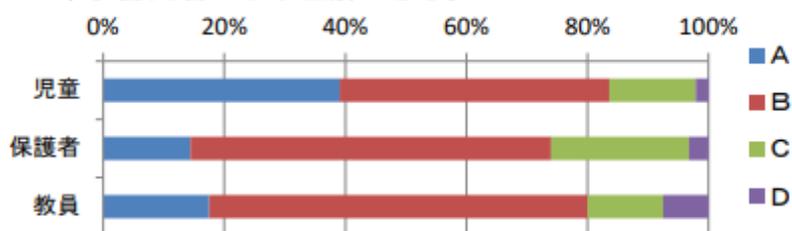
10. 自分の命を守るために、正しく判断し、行動することができる。

	A	B	C	D
児童	68.7%	24.3%	5.3%	1.7%
保護者	49.4%	45.7%	4.6%	0.3%
教員	20.0%	65.0%	15.0%	0.0%



11. (高学年)教科担任制になって、学習内容がより理解できる。

	A	B	C	D
児童	39.1%	44.5%	14.3%	2.1%
保護者	14.4%	59.6%	22.8%	3.2%
教員	17.5%	62.5%	12.5%	7.5%



- 概ね肯定的な評価の割合が多く、学校教育目標「自ら学び、共に高め合う子」を意識し、教育活動に取り組んできたことが表れている。
- ほとんどの児童は自他ともに大切にし、互いに助け合って活動することができている。自己肯定感を高める働きかけや、いじめ防止に向けての取り組みが成果を上げていると思われる。しかし、いじめ0に向けてさらなる取り組みが必要である。
- 教科担任制の取り組みについては、一定の効果을上げている。しかし、保護者からの評価がやや低下した要因については検討し、家庭学習のあり方や成果の周知方法等を見直すべきであると思われる。
- △「夢(目標)に対して粘り強く、工夫して取り組む力」(主体性)における課題は未だ大きい。子供たちが「やってみよう!」と思える授業や教育の改善を図ることで、協働的な学びを通して互いに励まし合い、学びの深まりを楽しみながら共に高め合うことができる子の育成を目指していきたい。

IV 学校運営協議会における学校関係者評価

- ・いじめの防止、早期解決への対応については、組織的に取り組んでいることがうかがえる。解消に向けても、丁寧に進めてよい。
- ・教科担任制への保護者の評価が下がっているが、小学校段階での教科担任制についての詳細や効果については、浸透するまでに時間が掛かると思われる。保護者へのアピールをもっとしていけばよいと思う。
- ・「寄り添って指導してほしい」という意見と「厳しさに欠ける」という意見があることに難しさを感じる。厳しくすることで保護者の不信感につながってしまうことが懸念される。
- ・保護者の意見を受け入れつつ、教員の負担増にならず、かつ教育的効果が望めるような教育課程の編成が必要。

V 今後の改善方策

- ◇今後もいじめ防止のために、保護者とのコミュニケーションを密にして、情報をより早く拾い集め、いじめの早期発見につなげていく。また、いじめが起きた際は、マニュアルを活用した早期解決に向けて迅速に取り組んでいく。
- ◇教員の時間外労働短縮を目標に働き方改革を視野に入れた学校経営を支えるため、なかぜっ子サポーター制度を有効に取り入れていく。保護者や地域の方のサポートを得ながら、子供たちの「やってみよう!」「関わってみよう!」という主体性を引き出せるような授業改善、行事計画を行っていく。